

十周年記念号刊行に際して

森 為 三

兵庫県生物学会は昭和22年6月6日明石小学校で創立総会を開き、学会規約の制定役員の任命などがあり、不肖私が会長に推された。爾来会員各位の心からなる御協力殊に理事諸賢の終始一貫献身的御努力の結果、普通かゝる地方の学会はよく創設はさるゝが竜頭蛇尾に終るものが多い中に、年を加うる毎に発展し、昭和32年を以て10周年を迎え、10周年記念総会を昨年5月25日市立姫路高等学校で盛會裡に挙行し、今回更に10周年記念号刊行の運びとなつたことは会員各位と共に慶賀の至りに堪えない。それと共にこの10年間の御協力御努力に対し会員や理事の方々に深甚の謝意を表する次第である。普通10年1昔と云つて過ぎ去つてみれば夢のように思われるが、しかしこの10年と云う歲月は決してなまやさしく安易に過したのではない。創立当初は敗戦の結果占領下にあり、物資不足人心安定せず、機関誌『兵庫生物』出版に対しても、印刷用紙の獲得や経費の面で理事各位の一方ならぬ苦勞があつた。また総会其の他の会合にしても手弁持参で出席せねばならず、原稿や通信なども検閲を受ける状況下であつた。かゝる悪環境の下に会員は一層奮起結束し、各地に続々支部が結成され、採集会や講演会が行われ多大の効果をあげると共に、会員も次第に増加して、創立当初160名であつたものが現在は600名に達している。かくの如く発足当時は苦難の途を辿つたが、会員各位の熱意と理事諸賢の御努力により、悪環境を打開し、また「生物入試問題集」や「生物実験ノート」などを刊行して「兵庫生物」印刷費の一部にあて、それにより「兵庫生物」も創刊号は26頁という貧弱なものであつたが、現在は100頁近いものになり、内容も豊富になつた。総会も当初は出席会員数十名に過ぎなかつたものが現在は2、300名に達する盛會のものとなつている。講習会や採集会は県下くまなく各地で度々行われ、何れも超満員の盛況で、講師各位も熱心に指導され多大の成果をおさめている。本会がいかに各地で度々総会、講習会、採集会などを行つたかは別記学会10年間の行事の記事を見ていただければ了解されることゝ思う。

本会はいかように会員を対象として生物学の普及振興研究調査等を行なつているのであるが、また一般大衆を対象としてその普及振興等にも努力している。今迄に2回この方面の大行事を行つた。第1回は昭和23年10月7～9日神戸訪誦山小学校で日本生物教育会第3回大会が開催された際、これを機会に本会は生物展示会を山手小学校の講堂を借りて行い教師、生徒の研究による標本や図表を展示し、全国から来られた生物教育会員や一般大衆に公開して展覽に供した。その際係の方々は随分苦勞されたが兵庫県の生物を知つて頂く上には多大の効果があつた。それと共に兵庫県の著明な生物を通俗的に解説した「郷土の生物」を刊行して生徒の課外の読物にした。第2回は昭和31年兵庫県で第11回国民体育大会が開かれるので、これを機会に神戸新聞社と共催で神戸新聞社の展示場を使用し、兵庫県生物展を10月26日～11月11日まで行い、兵庫県の主な生物を説明をつけて展示し、県民は勿論全国から国体に来られた方々に展覽に供した。毎日多数の入場者があり盛會であつた。今回は前回に比し期間も長く標本も遠方から運ばれ、其の数も多く、その運搬や陳列に大辺苦勞し係の方々は陳列に徹夜した次第であつた。これによつて今回も「兵庫生物誌」を刊行し、各方面の各研究をしてをられる会員の方々に専門の方面を執筆して頂き、兵庫県の生物を紹介普及することにした。其の他「天然記念物を探る会」などを催して一般大衆に生物知識普及に努めている。

かくの如く本会は年を重ねる毎に益々隆盛になりつゝあり、また行事も各面に展開し活発に行われつゝある。現下我が国は世界の状況にかんがみて理科教育振興の聲が喧しく、またこれが経費の面でも具体化せんとしつゝある。本会の事業は理科教育振興の先端を行くものであつて、理科教育に対し多大の貢献をなしているものであると自負する次第である。会員各位は現在の科学の進歩に即応し、本会の事業に協力され、一層の御研究御活躍を期待してやまない。

終りに重ねて10周年記念号刊行を祝すると共に会員各位のこれまでの御協力を深謝し、今後の発展に一層の御配慮御支援方を御願ひして欄筆する。